

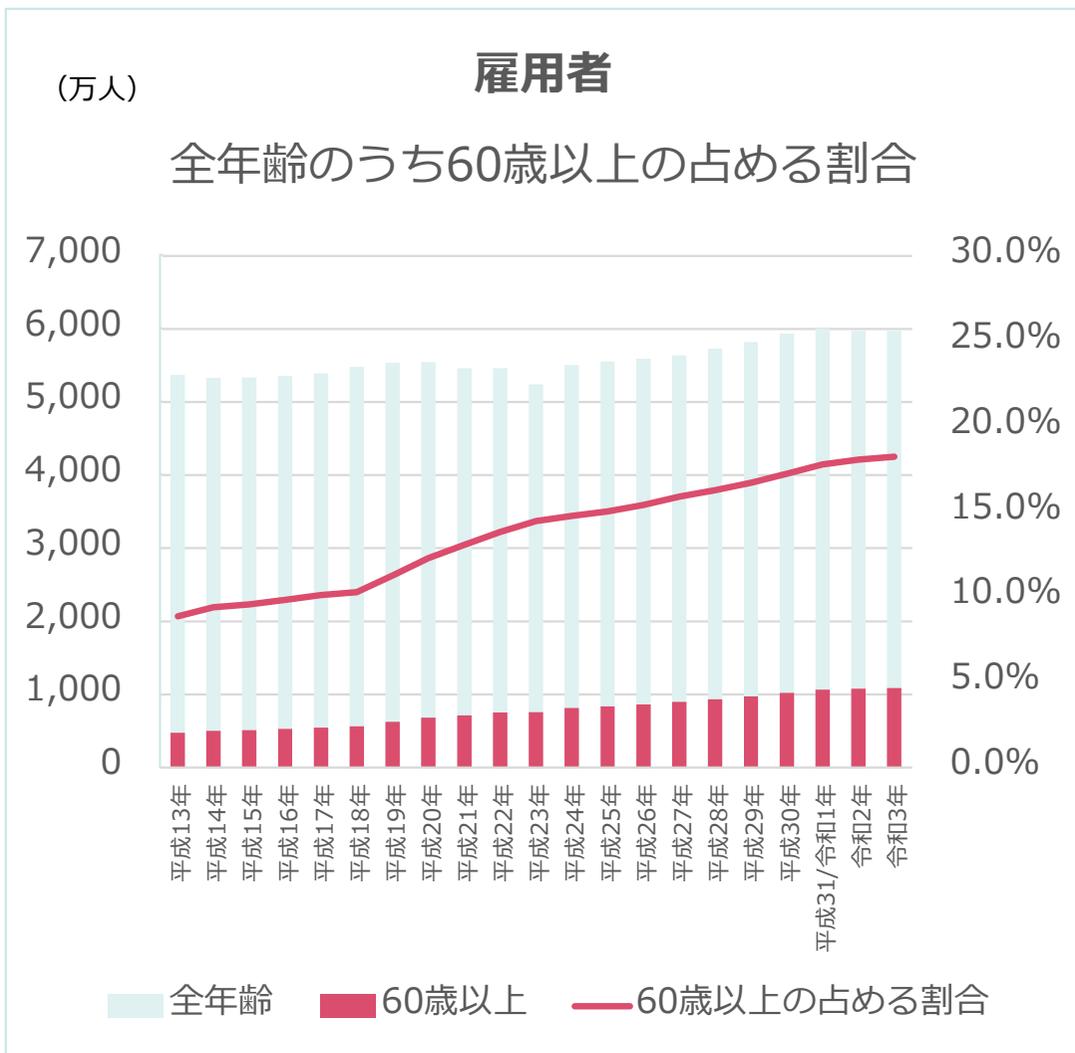


参考資料 6

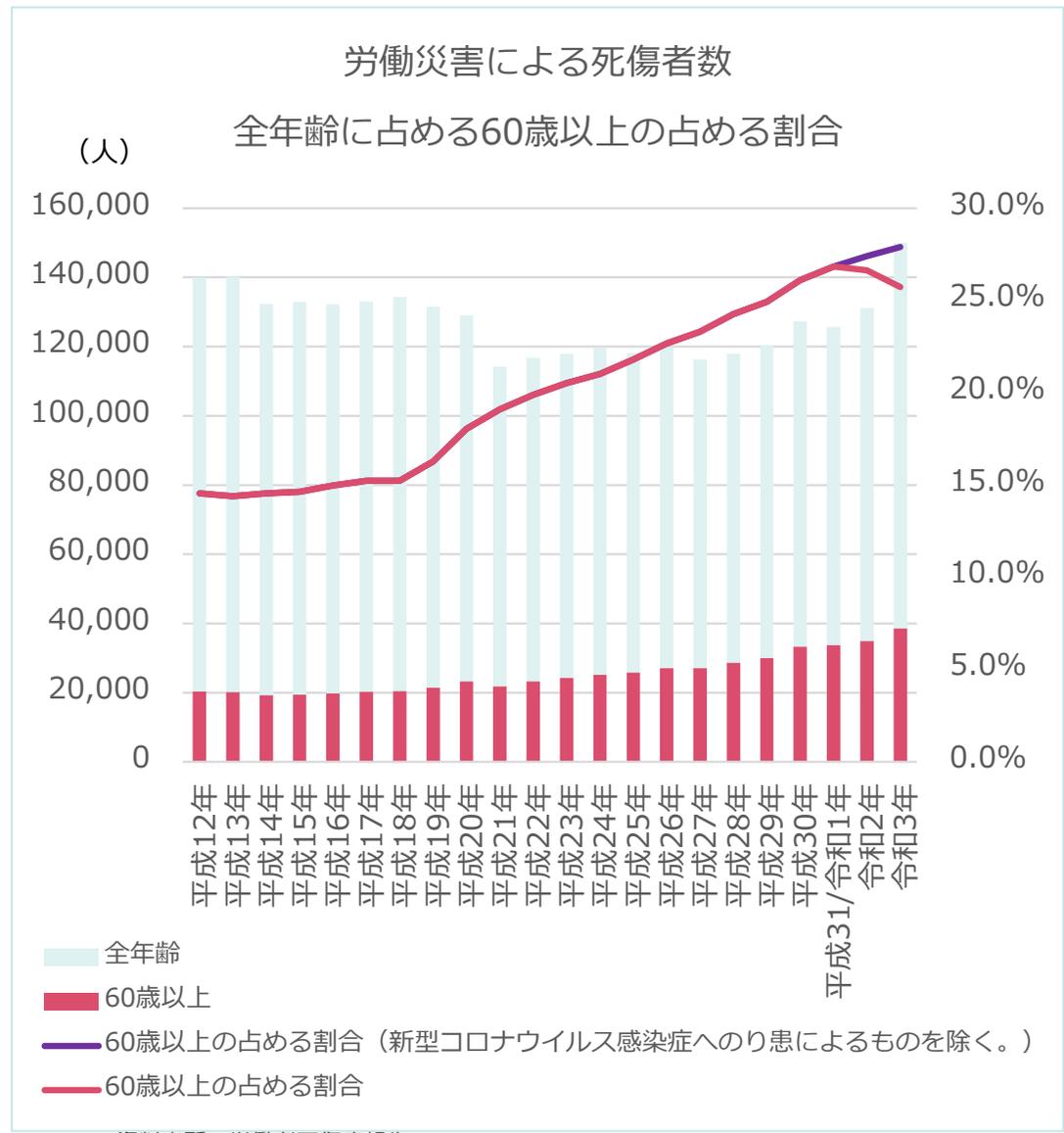


高齢者の就労と被災状況

- ◆ 雇用者全体に占める60歳以上の高齢者の占める割合は**18.2%**(令和3年)
- ◆ 労働災害による休業4日以上¹の死傷者数に占める60歳以上の高齢者の占める割合は**25.7%**(同)



資料出所：労働力調査（総務省）における年齢別雇用者数（役員を含む。）
 ※平成23年は東日本大震災の影響により被災3県を除く全国の結果となっている。



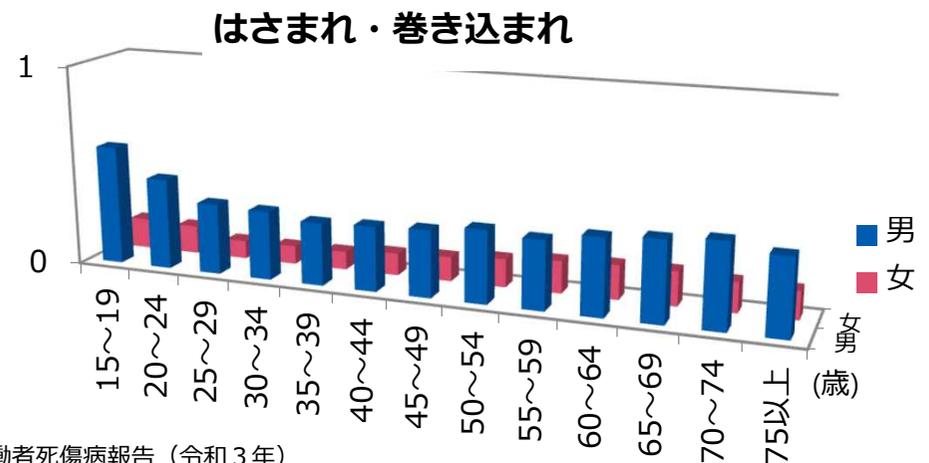
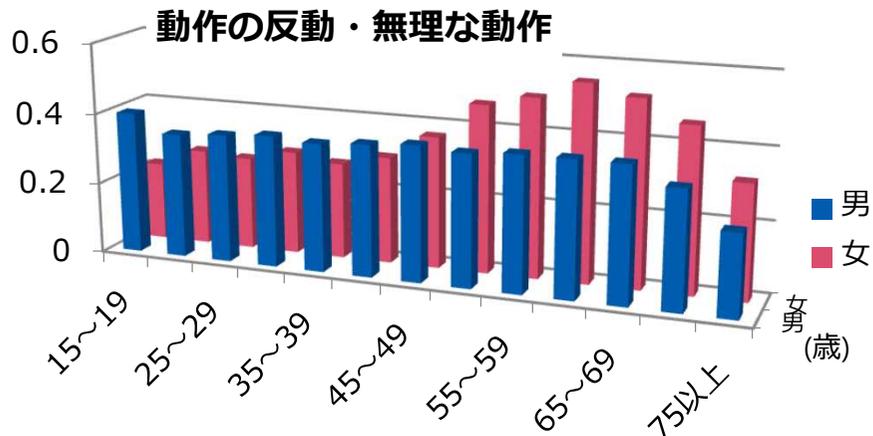
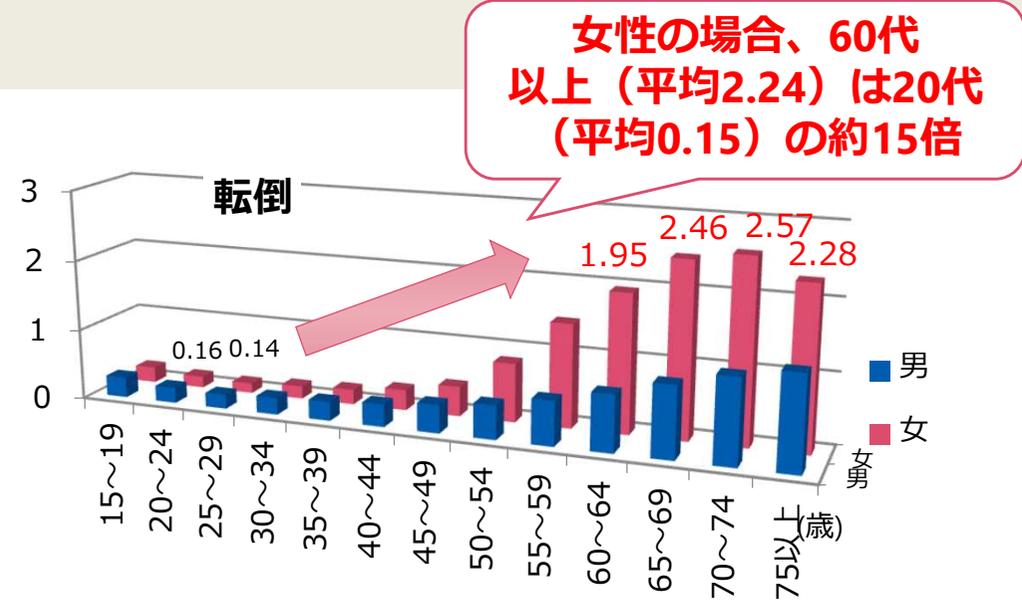
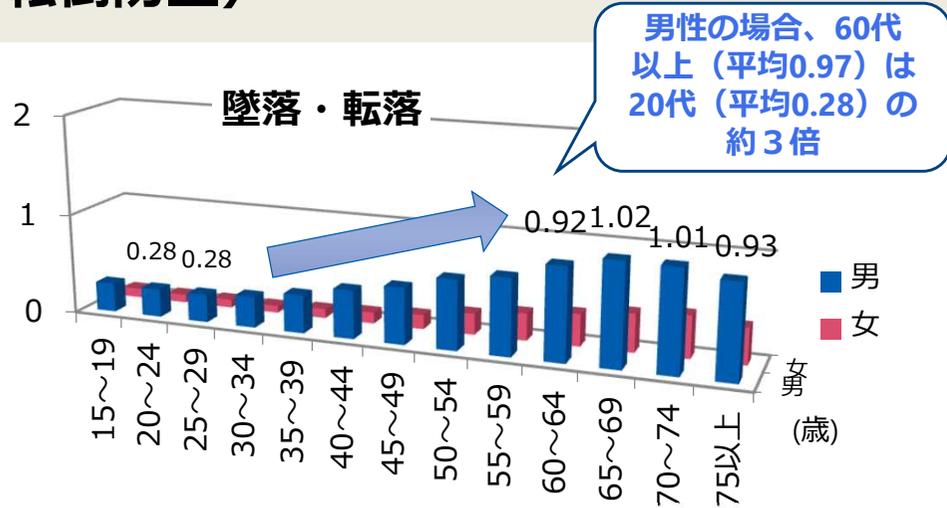
資料出所：労働者死傷病報告

高年齢労働者の労働災害の特徴（年齢別・男女別、事故の型別の分析）

■ 転倒は、高年齢になるほど労働災害発生率が上昇。

■ 高齢女性の転倒災害発生率は特に高い。

⇒ 年齢の上昇に着目した対策は転倒、墜落・転落で特に重要な課題（とりわけ高齢女性の転倒防止）



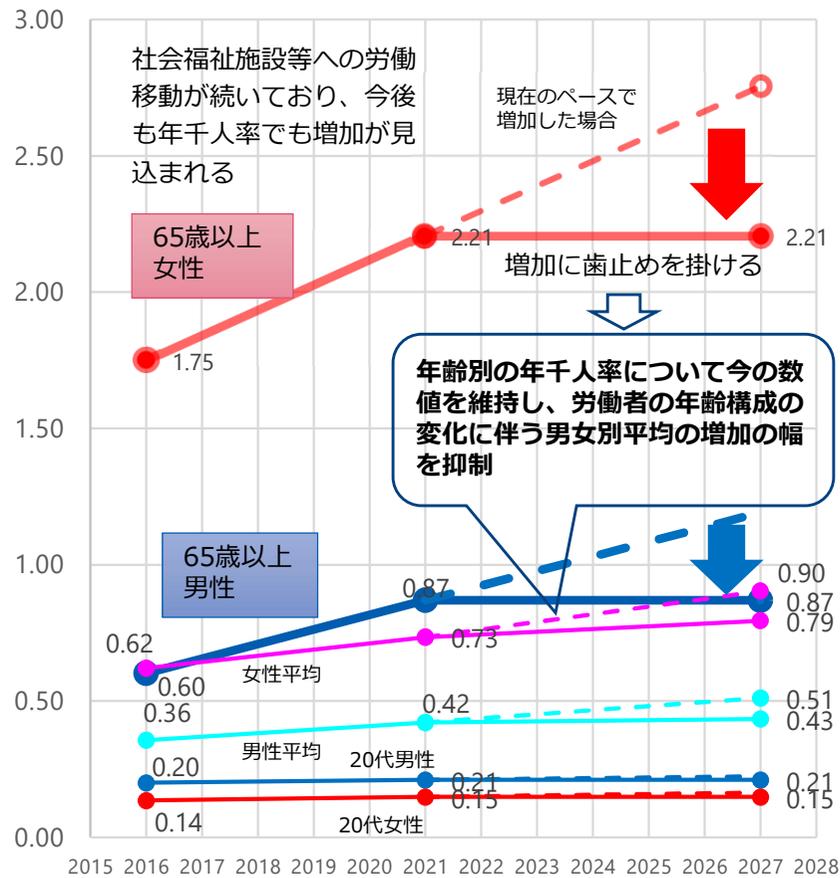
※千人率=労働災害による死傷者数/その年の平均労働者数×1,000
 ※便宜上、15~19歳の死傷者数には14歳以下を含めた。

データ出所：労働者死傷病報告（令和3年）
 ：労働力調査（基本集計第I-2表・年次・2021年・役員を除く雇用者）

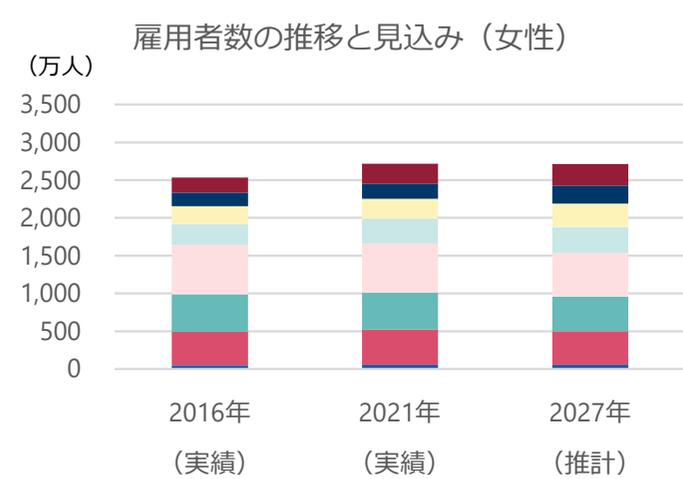
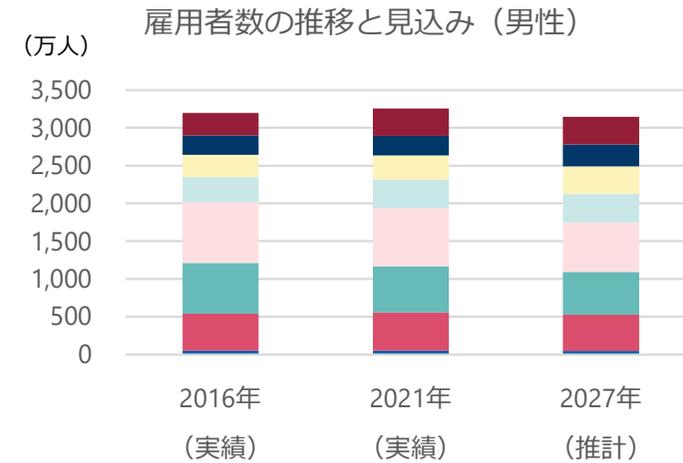
転倒災害に係る目標設定について

- 転倒災害の発生率（死傷年千人率）は身体機能の影響も大きく、性別・年齢別で大きく異なる。高齢年齢層（特に女性）が高い。
- さらに**性別・年齢別の発生率も増加傾向にあるところ、この増加傾向に歯止めをかける。**

転倒災害の年齢別・性別の発生率（死傷年千人率）



	2016年(実績)	2021年(実績)	2027年歯止めをかける(目標)	2027年現在のペースで増減した場合
男性				
15~19歳	0.27	0.29	0.29	0.31
20~29歳	0.20	0.21	0.21	0.22
30~39歳	0.24	0.25	0.25	0.26
40~49歳	0.31	0.34	0.34	0.37
50~54歳	0.39	0.43	0.43	0.48
55~59歳	0.48	0.57	0.57	0.67
60~64歳	0.59	0.69	0.69	0.81
65歳~	0.60	0.87	0.87	1.19
(加重)平均	0.36	0.42	0.43	0.51
女性				
15~19歳	0.23	0.21	0.21	0.19
20~29歳	0.14	0.15	0.15	0.16
30~39歳	0.18	0.19	0.19	0.20
40~49歳	0.35	0.36	0.36	0.37
50~54歳	0.70	0.81	0.81	0.93
55~59歳	1.27	1.40	1.40	1.56
60~64歳	1.76	1.85	1.85	1.97
65歳~	1.75	2.21	2.21	2.75
(加重)平均	0.62	0.73	0.79	0.90



● 今後、死傷年千人率が比較的高い高齢層が更に増加すると見込まれることから、**発生率の全年齢平均値（加重）は増加が見込まれるものの、上記目標によりその増加幅を抑える。**

データ出所：労働者死傷病報告（令和3年）
：労働力調査（基本集計第II-2-2表・年次・2021年・雇用者（役員を含む。））